

令和5年

正副会頭新春座談会



昨年9月12日(月)の山口商工会議所臨時議員総会において、河野康志会頭をはじめ、河村利夫副会頭、椛山一生副会頭、白瀧厚史副会頭、田中真樹SDGs特任委員長役員が選任されました。任期は令和7年10月31日までの3年間です。新体制となることにあたり、正副会頭および役員に就任されての抱負や今後の運営方針、会議所活動などについて聞きました。

◇出席者

- 河野 康志 会 頭 (株式会社マルニ 代表取締役社長)
河村 利夫 副会頭 (中国芝浦電子株式会社 代表取締役)
椛山 一生 副会頭 (萩山口信用金庫 理事長)
白瀧 厚史 副会頭 (株式会社山口グランドホテル 代表取締役社長)
田中 真樹 SDGs特任委員長役員 (有限会社御堀堂 代表取締役社長)

(河野) あけましておめでとうございます。本日は、新役員の皆さんに、就任されての抱負や意気込みを伺い、今後の運営方針や会議所活動について意見交換したいと思います。

私は2期6年の任期を終え、3期目役員に着任させていただきました。2期目の3年間は新型コロナウイルス感染症の影響により、その対応で任期を終えたと思います。3期目のお話を頂いた際に、チャンスがあるならコロナ禍

で出来なかった事に取り組みたいと思い、引き受けさせて頂きました。

まず、今期は商工会議所の議員で構成する内部委員会を刷新しました。山口都市核エリア内の様々な取り組みに関する情報共有やエリア内活性化施策を推進する「コンパクトシティ推進委員会」や、商工会議所の役割を周知しながら新会員獲得の動きを加速させ、会員のビジネスチャンス



河野会頭

拡大を推進する「会員拡大交流委員会」、小郡都市核エリア内、特にJR新山口駅近郊の賑わい・コミュニティ復活に向けた施策を推進する「新山口まちおこし委員会」の3つを設置しました。

また対外組織として、SDGs特任委員長役員に担当して頂く「(仮)商工会・商工会議所連携協議会」と、私が担当する「オール山口ブランド推進協議会」の設置を考えています。山口県央商工会(旧阿知須・秋穂・阿東商工会)、徳地商工会、山口商工会議所(旧山口・小郡商工会議所)は1市5町が行政合併する以前の行政区画がそのまま現在の管轄エリアとなっています。都市部が多い山口商工会議所と中山間地域が多い商工会がお互いを補完することで、地域内の消費循環をより進めることができると考えます。持続可能な社会の構築には商工会と商工会議所の連携は欠かせません。両者の個性を尊重し、コロナ禍や物価高であっても地域内の消費を活性化させられる仕組みをつくり、最終的にはオール山口(山口市域全体)で農林水産加工品などを含む様々な山口産品の商品化、ブランド化を推進して県央連携都市圏の経済循環を実現させることを目指します。

役員の方には各委員会を担当していただきます。新役員には幅広い年齢層の方をお迎えすることができましたので、幅広い方々への支援がより充実するものと期待します。これから3年間、どうぞよろしくお願いいたします。

(河村) 副会頭として2期目に入りました。最初の3年間は会頭と同じく、新型コロナのために積極的な活動ができなかったという印象ですので、ひとつ何か形にしたいという思いが強いです。

昨年秋にリリースした地域内経済循環アプリ「やまっち」のように始まったばかりの事業もあります。私は「(仮)やまっち推進委員会」の委員長も務めますが、3年後も皆さんにやまっちを使っていたら、「このアプリ良いね!」と思っていただけるように着地点を見定めて動いていきます。また、川口雄一郎委員長((有)末廣 代表取締役)とコンパクトシティ推進委員会も担当します。

役員の方の顔ぶれが変わり、先輩も後輩もいるようになりましたが、ちょうど間に挟まって良い刺激を受けられるのではないかと考えています。



河村副会頭

(河野) それでは今期から新たに役員に就かれた皆さんに、就任に当たっての思いや抱負を伺いたと思います。

(梶山) 私たちは地域に根差した金融機関なので、その地域に活力がなくなると存続できなくなってしまいます。地域の皆さんが元気でいられるようにするという意味で、会議所と萩山口信用金庫は一蓮托生です。宮川和也委員長(株常盤 代表取締役社長)と会員拡大交流委員会を担当しますので、これを念頭に会員拡大を図っていきたくと思います。

皆さんのお力を借りて様々なことを発信できるよう努力していく所存です。楽しく活気ある会議所づくりができればいいと思っています。



梶山副会頭

(白洲) この度、副会頭という重要な職をお預かりしました。以前は新山口エリア交流振興委員会の委員長を3年間務めていました。私は大阪出身なのですが、この委員会では、地元ではないからこそ気付いたことをいかに活用できるかという観点から新山口を盛り上げることを目指していました。

この度は副会頭として、新山口まちおこし委員会を岩城考浩委員長(株岩城酒舗 代表取締役)と担当しますが、まずはこれまでの3年間で培ってきたものをしっかりと引き継ぎたいです。

微力ながら、山口商工会議所に少しでも貢献できればと思っています。よろしくお願いいたします。

(田中) あけましておめでとうございます。ここ数年は新型コロナに右往左往させられていましたが、昨年になってやっとコロナと共存し、経済を回していくようなモードになったと思います。

この度SDGs特任委員長役員を仰せつかりましたが、実は商工会議所や山口市の未来に向けての第一歩を踏み出すために引き受けさせていただいたという気持ちがあります。

私は山口商工会議所の青年部出身ですが、当時他の青年経済団体と交流する中で、次世代を担う方の力を上手に連結させていかなければ、山口市は段々と活力がなくなっていくのではないかと感じました。他の役員の方とは少し違う立場で、まずは山口市の可能性がある人たちととにかく話をして仲間になって、「面白いことを一緒にやろう!」という機運を高めることが最初の役目になると思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

(河野) 皆さん、改めましてよろしくお願いいたします。過去2~3年を振り返ると、新型コロナの影響で経済状況はがらりと変わりました。そのような中、会社経営自体が非常に厳しい業界の方にも役員に就いて頂いたというのは大変

ありがたいことです。コロナで何が一番ダメージを受けたかが本当によく分かっておられると思いますので、要望活動などを通して行政施策や経済対策への反映に生かして頂きたいです。お互い密に情報共有を行い、商工会議所として迅速に、必要などころに必要な予算措置が臨機応変にできる様に動いていきたいと考えています。

今期は新設した（仮）商工会・商工会議所連携協議会を通じて阿知須、秋穂、阿東、徳地の商工会と連携を取りながら、オール山口で経済活性化を図っていく狙いもあります。

また委員会活動では、中心市街地エリア創造委員会でコンパクトシティ化を進めていきましたが、これからはコンパクトシティ推進委員会を通じてより広い繋がりをつくり、人の輪から経済的な結びつきを深めていきたいと考えています。湯田なども含め、山口都市核全域まで少しエリアを広げ、山口都市核内の街の動きや情報を共有し、必要に応じてハード、ソフト両面の関連事業を推進していけるようにすることを想定しています。

一方、新山口エリアには、一昨年KDDI維新ホールが完成し、利用状況は高稼働率を誇っています。市民・県民の間でも便利さが浸透してきているように感じていますが、賑わいやコミュニティづくりはこれからという印象があります。山口都市核だけに人が集まっては片手落ちになってしまいます。小郡の方でもしっかりと都市核づくりを行いたいということで、新山口まちおこし委員会を設置しました。白濁副会頭のもと、従来の新山口エリア交流振興委員会とは少し趣向を変えて、イベントやシンポジウムを開催するなどしてコミュニティづくりや賑わいづくりをし、まちづくりを進めていってほしい想いがあります。

最後に、新設した会員拡大交流委員会について、商工会議所の様々な対応の中で、コロナ禍でも会員事業所数が若干増加しています。この流れをより強固にするためにも、同委員会を通して、まだ会議所をご存じない方にも会議所の活動内容を知っていただき、会員がより増えるように様々な取り組みをしていただきたいと思います。新たに入会された方や既存の会員事業所の皆さん全体が集まるような会員大会などの開催を考えています。

（河村） コンパクトシティ推進委員会では、コンパクトで機能的で集約された住みやすい街をつくることを目指すようになるかと思っています。街をコンパクトにするとその周りが活性化しないのではないかと、と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、田中SDGs特任委員長役員や、新山口まちおこし委員会とも上手く連携しながら取り組んでいきたいと考えます。

いずれにしても必要なのは、やはり経済循環です。仕事があって、お金が回り、生活できる街でなければ人は残ってはいけませんので、行政や民間と手を取って、どうすればよりよくなるかというのを一生懸命に考えていく必要があります。

数年後には山口市役所の新庁舎が竣工する予定です。早間田交差点やパークロードにも影響があることと考えますので、良いきっかけとして活用してやっていきたいですね。

また、経済循環については「やまち」も起爆剤のひとつ

として活用したいと考えています。山口市全体の情報がまとまったツールにしたいですし、将来的には7市町（山口市・宇部市・萩市・防府市・美祢市・山陽小野田市・津和野町）も含めた広域のことも発信できるようにしたいと思っています。

（梶山） 私は会員拡大交流委員会を担当しますが、やはり組織を活性化するには会員を増やさなければなりません。ざぱり言うと、市町村にしても人口が減少傾向にあるところは元気がないですよ。山口市は、全体でみると微減しているかもしれませんが、小郡都市核や山口都市核で見れば増えているので、山口商工会議所は恵まれているところにあると思います。

新型コロナの影響もあり、廃業される方も増えています。一方で創業される方が少ないかというところでもなく、コロナ禍でも創業される方が結構いらっしゃいます。既存の企業の方も業態を変えたり、新規事業を始めたりして非常に努力されているので、山口商工会議所はまだまだ元気のある会議所になれると思っています。

コロナ禍でも会員数が微増しているということですから、この流れは途絶えさせたくないで、宮川委員長と協力して新規の入会支援はもちろん、脱退をできるだけ防いでいきたいです。

しかしながら増やす一方ではなかなか活性化させることはできません。そこで、入会された方にどのように会議所の存在価値を認識してもらうかということですが、様々な交流会でコミュニケーションを図り、フォローアップすることが一番の近道なのだろうと思っています。基本的には四半期に1回程度、定例的に開催できればと考えております。

（田中） 会員拡大については、青年部の活動を支援することもひとつの良い手じゃないかなと思います。青年部に入るためには会議所に入らなくてははいけませんから、多くの若い世代の皆さんが青年部に入ってもらえるようにできればいいなと思います。



田中 SDGs 特任委員長役員

（梶山） 若い方で事業を始められた方は、やはり何らかの団体に入って横の繋がりを持つことが大事ではないかと思っています。会議所の場合は様々な支援ツールを持っているから、それはしっかりアピールしていけるといいですよ。若い経営者などの皆さんには一度入っていただいて、定期的な勉強会や懇親会の開催など色々な手法でフォローするなど、委員長や会頭、副会頭、特任委員長役員のお力を

借りて実施したいです。特に、特任委員長役員は青年部にお顔が利いていると思いますので、どうぞよろしくお願ひします。会員同士のビジネスマッチングを促進できるような取り組みも頑張ってみたいと思います。

(河野) 以前、会員大会は開いていたことがあります。年4回程度、それぞれ別のテーマで実施してみても面白いかもかもしれませんね。

(河村) 商工業者の方、特に中・小規模事業者の方は、商工会議所を使いこなしていただければ便利さを分かっていると思います。人脈を広げることも含めて、法律関係や、税務面の支援などもあります。そういった支援をすることが商工会議所の設置目的のひとつですし、そのための組織です。実は私も商工会議所に関わり始めてから初めて知ったことがたくさんあったので、会員であり続けることで「入ってよかった」「こんなに良いことがあるんだ」と感じてもらえれば良いと思います。

(白瀧) 私は前期に引き続き、新山口エリアの委員会を担当させていただきますが、新山口はKDDI維新ホールができてから、様々な催しがウィズコロナの中でどんどん展開されるようになってきました。KDDI維新ホールというハード面ができ、これからはソフト面の充実、賑わいやコミュニティの復活が肝になります。催し事を見ていると、地元の方が何かを企画して新山口で行っているというケースはまだ少ないように思います。地元のメンバーがしっかりと地元のこと、ひいてはオール山口のことを考えて「街を興していく」という発想が非常に重要であろうと、岩城委員長とともに考えているところです。

これを念頭に考えていきたいのですが、街おこしには山口商工会議所単体だけではなく、新山口駅の周辺なのでJRやKDDI維新ホールなどの協力も必要になります。またオール山口の考え方からすると、山口県央商工会や徳地商工会との連携も必要です。新山口エリアでは吉南青年会議所が街づくりに向けて色々なイベントをされているので、そのような他団体とも連携をとりながら、新山口のさらなる活性化に努めることができるようなことをどんどん展開していくことが必要だろうと思います。

(河村) 先日、東京から来られた歌手兼アーティストの方をKDDI維新ホールにご案内して舞台裏など見学させていただきました。ですが、「東京でもこんなに整っているところは多くない」と話されていました。ステージは幅も奥行もあり、駅も含めてコンパクトにできているとすごく感動しておられました。このことから、新山口にはポテンシャルがあるなと感じましたし、上手く生かしていければよりよくなると思いました。

(白瀧) 山口市の考えにもあるように、山口都市核と小郡都市核との両輪がしっかりと盛り上がり、こそ山口市のさらなる活性化に繋がるのが考えられます。

また、商工会議所に入っている小郡の事業所の方は、まだ

少ないように思います。商工会議所が新山口で面白いことをたくさん行っている姿を見せることが、小郡地域の会員拡大にも繋がると考えますので、会員拡大交流委員会や、コンパクトシティ推進委員会、SDGs特任委員長役員との密な連携で新山口をしっかりと盛り上げていきたいと思っています。

山口県の陸の玄関口である新山口が盛り上がり、山口市、ひいては山口県全域にその影響が波及する可能性があるという自覚を持って3年間務めたいと思っていますのでよろしくお願ひいたします。



白瀧副会頭

(河野) SDGs特任委員長役員や、(仮)商工会・商工会議所連携協議会、オール山口ブランド推進協議会の設置は完全に新規の取り組みです。全国でも珍しい取り組みだと思います。

(田中) 「商工会・商工会議所連携」ということを明文化して、ここまで踏み込んだ事業をするということ自体が、非常にチャレンジングだと思います。ただ集まってワイワイやるだけではなく、まずはハブになる実利的な協議会にすることが私の大きな役目だと考えています。

役員を拜命してから、山口商工会議所としてSDGs(持続可能な開発目標)のどの項目に重点を置くべきかを考えたとき、「住み続けられるまちづくりを」が第一だと思いました。南北に大きく広がり、それぞれの地域にその街の特色がある山口市を「全国から訪れたい街」や「住みよい街」にするには、全体で共通した認識を持つことが大切になると考えます。

山口市には個性的で魅力的な取り組みをしている方たちが多くいらっしゃいます。SDGs特任委員長役員として、山口市に散らばっている魅力的な人々にかく声をかけ、自分たちの街に住み続けられる街にするにはどうすればいいか話し合うことから始め、出会った人をうまく繋げていきたいと思っています。

今、月報を読まれている方で、個性的な事業をされていたり、新しい商売を始めておられたりする方をご存じであれば、ぜひご紹介いただきたいです。様々な方と連携し、充実した3年間にしていきたいと思っています。

(河野) 内部委員会を刷新し、各商工会と連携した対外的な組織やプロジェクトも立ち上げました。ひとつひとつ着実に成果を残し、地域内経済の循環などでよりよいまちづくりに取り組んでいきたいと思います。